日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
For Social Innovation

キフノチカラ

kifunochikara

日本財団 寄付事業活動報告書 2022

kifuno chikara

2022年度もたくさんの あたたかなご寄付を ありがとうございました。

2022年度も日本財団にあたたかなお気持ちをお寄せいただき、誠にありがとうございました。みなさまのご寄付は、子どもたちや被災地の方々など、サポートを必要としている数々の現場で活用されています。

わたしたちが取り組むべき社会課題はますます複雑化・多様化しています。みなさまからお預かりした「キフノチカラ」を現場にきちんとお届けするべく、しっかりと取り組んでまいります。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

数字で見る2022年度

子どもサポート

6,400万円以上

2022年12月に新たに設置した日本財団子どもサポート基金に64,566,891円のご寄付をいただきました。（2023年3月末時点）

災害復興支援

105件

令和4年福島県沖地震被害と大雨・台風被害への事業105件を支援しました。

ウクライナ避難民

91名

就労・進学を目指して日本語に取り組むウクライナ避難民91名に奨学金給付を決定しました。（2023年5月16日時点）

社会貢献企業基金

68社

68社の中小企業から社会課題解決のためのご寄付をいただきました。

日本財団 チャリティー自販機

新規設置台数 **491台**

2022年度新規設置台数は491台。日本全国で8,303台のチャリティー自販機が設置されています。（2023年3月末時点）

TOOTH FAIRY

1,540件

2022年度は1,540件の金属提供をいただきました。リサイクル金額は151,345,540円に。

子ども
第三の居場所

子ども第三の居場所とは

様々な困難に直面する子どもたちが、
安心して過ごせる居場所で「生き抜く力」を育むために

2022年度支援事業
Pick UP!

沖縄の子どもたちが初めてのスキー体験

沖縄県うるま市拠点の子ども達が長野県を訪問し、スキー体験を実施しました。子ども達は皆初めての雪に大興奮！スノーボード元日本代表の成田童夢さん、パラノルディックスキー・クロスカントリー日本代表の森宏明さんをゲストに迎え、スキーブーツの履き方や装着、足の向きをハの字にして滑る基礎を教わりました。

スキー教室の開始前には初めての体験に不安を感じる子も多かったですが、友達同士で声を掛け合いながら一生懸命練習したところ、スキー教室開始から2時間程度で滑ることができるようになり、リフトにも乗れるようになりました。今回の体験活動は、子ども達にとってかけがえのない思い出となる1日となりました。

Voice
支援現場からの声

子ども第三の居場所利用者の
絵日記から

わたしは、長野県に行きました。スキーでさいしょは、ぜんぜんできなかったけど、なりたどうむせんしゅともりひろあきせんしゅに足は、八の字にしてとかおしえてもらってじょうずにできるようになりました。さいごは、リフトに行って一番高いところからすべりました。4回ころんだけどぜんぜんいたくなかったです。ゆきはとてもふわふわだったからです。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

難病の子どもと その家族の支援

難病児支援とは

難病を抱える子どもと家族の社会的孤立を防ぐために

2022年度支援事業 Pick UP!

全国医療的ケアライン全国フォーラム

医療の進歩によって救われる命が増えた一方で、退院後に自宅で医療的ケアや介護を担う家庭が増えています。家族が担う介護の負担を軽減し、生活を支援するために2021年に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、専門的な相談に応じる支援センターの設置が全国的に進められています。

そうした中、医療的ケア児の家族の声を社会に届けるために全国の家族会から成る「全国医療的ケアライン（アイライン）」が2022年3月に設立。9月に支援法の施行から1年を祝う「全国医療的ケアライン全国フォーラム」を開催しました。全国から家族が集まって現状を報告し、みんなが繋がりを感じて喜び合い、これからへの思いを確かめる1日となりました。

Voice
支援現場からの声

全国医療的ケアライン（アイライン）
代表 宮副和歩さん

フォーラムを通じてお互いに繋がりあい孤独でないことを確かめ合うことができました。一人では余裕も何もなくて伝えられないことも、繋がり合い共有し合うことでまとめて声を届けられます。重い病気や障害があっても、安心して暮らし続けられる社会作りのために国や自治体に政策提言をし、イベントをするなど発信をしていきます。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

kifuno chikara 03

夢の奨学金

夢の奨学金とは

社会的養護の経験のある若者の未来を諦めない、
その強い意思に応えるために

2022年度支援事業 Pick UP!

第8期生 認定証授与式

2023年3月、「日本財団夢の奨学金」の奨学生として新たに加わる第8期生の認定証授与式が、日本財団ビルにて開催されました。6人が新たに奨学生として認定され、遠方からも含めて全員が式に集まりました。

これからの学生生活を支えるソーシャルワーカー、そして日本財団職員が見守る中、日本財団会長・笹川陽平から一人ひとりに認定証が授与され、励ましの言葉を受けました。認定証の授与に続いて、奨学生の皆さんからの自己紹介があり、これからの学生生活でがんばりたいこと、達成したいこと、そして将来の夢など、改めて決意や意気込みを語ってくれました。

Voice 支援現場からの声

第8期 夢の奨学生

社会学部に進学し、社会福祉に関する勉強に取り組みます。在学中には社会福祉主事および指導員免許等の資格を取り、卒業時には社会福祉士の資格取得を目指しています。将来はNPO法人などに就職し、子どもと関わる仕事をしたいという夢を持っています。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

kifuno chikara 04

災害復興支援

災害復興支援特別基金とは

被災地への迅速な緊急支援を実施するために

2022年度支援事業 Pick UP!

令和4年8月大雨（新潟県関川村）

2022年8月3日、新潟県関川村は観測史上最も多い降水量を記録。各所で土石流災害が発生したほか、荒川の内水氾濫により200軒以上の住宅が浸水被害に遭いました。支援団体の（特）レスキューアシストは高田地区で活動を開始しましたが、同地区の被害もほぼ浸水によるもので、泥が住宅の中に積もっている状態でした。

現場の作業は単純に家屋の泥出しをするだけにとどまりません。水浸しになった家屋は壁や床の張り替えが必要になる場合もあり、それらを大工さんに引き渡すための掃除や乾燥など、多くの人手が必要です。同団体は被災者のニーズをとりまとめ、多数のボランティアスタッフを指導しながら、100件以上の依頼に応えました。

Voice

支援現場からの声

特定非営利活動法人レスキューアシスト
中島武志さん

私たちは最後まで災害支援の現場に残ろうと思ってがんばっています。でも、多くの団体はお金が尽きてしまったら、支援を続けられないのが現実です。私たちは他の被災地にもブルーシートの補修をするために毎月行かせてもらっています。日本財団を通じて皆さんが寄付してくださっているおかげです。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

海と日本 PROJECT

海と日本PROJECTとは

私たちの海の現状を伝え、海の未来へ繋いでいくために

2022年度支援事業
Pick UP!

ごみ拾い専用回収BOX 拾い箱

「拾い箱」とは、ビーチクリーンなどで拾ったごみを捨てられる清掃ボランティア専用ごみ箱のこと。誰でもいつでも気軽にごみ拾いができる仕組みをつくるために「拾い箱プロジェクト」として、全国各地で取り組みが広がっています。

2022年度には、企業様からの寄付金を活用し、ごみ拾い活動の拠点として千葉県内6か所に拾い箱を設置しました。街から川を通じて海に流れ出るごみ拾いに活用いただくことで、キレイな海を保ちながら、海への親しみや楽しさを再発見してもらえれば幸いです。

Voice 支援現場からの声

「拾い箱」設置箇所利用者

拾い箱設置後、海岸はもちろん、浜辺に隣接する店舗周辺などのごみも、ボランティアによって拾われ、「キレイになった」「以前はサーファーが拾ってきたごみの置き場や処理に困っていたので、拾い箱を設置してもらってとても助かっている」といった感想のほか、「雨がふった翌日は、海岸にごみが流れてきているようで、拾い箱がいっぱいになる時もある」という、海洋ごみの状況報告なども届いています。

事業詳細はWEBサイトに掲載しています！

ウクライナ避難民支援

ウクライナ避難民支援とは

ウクライナからの避難民が日本で安心して生活し、
そして活躍するために

2022年度支援事業
Pick UP!

ウクライナ避難民向け日本語学校奨学金

2023年4月から就労・進学を目指す避難民を対象とした日本語教育を受けるための奨学金事業を実施します。

日本のウクライナ避難民の多くは大卒・大学院修了。支援を受けつづけるのではなく、日本社会に自分たちの経験を活かして貢献したいとの声もある中、経験や能力を活かした仕事につけていない理由の1つが日本語です。

日本財団は、ウクライナ避難民の受入れを希望する日本語学校の中で、受入態勢が整っていると当財団が判断した86校と提携し、それらの学校に通うための学費を支援します。

Voice
事業担当者からの声

日本財団ウクライナ避難民支援室
インナ・ガジェンコ

皆さんからの支援は、ウクライナ避難民の皆さんの大きな助けになっています。入国の段階で渡航費を払えない人も多いと思いますし、日本で暮らし始めてからも経済的に困窮する方が少なくないと聞きます。
日本語が分からず仕事が見つからないという人もいます。支援があるからこそ、安心して生活することができているのです。誠にご協力ありがとうございます。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

kifuno chikara 07

トンガ救援

トンガ救援基金とは

海底火山フンガトンガ・フンガハアパイの大規模な噴火により被害を受けたトンガ王国のために

2022年度支援事業 Pick UP!

コミュニティホールの整備支援決定

2022年1月15日、トンガ王国首都ヌクアロファの北約65kmに位置する海底火山フンガトンガ・フンガハアパイで大規模噴火が発生しました。それに伴う地震・津波により、人口の8割以上にあたる8万４千人が被災しました。

日本財団が支援を決定した被災住民のための再定住地域内におけるコミュニティホールの整備は、住民の集う場所が確保されることでコミュニティの維持・再建につながり、復旧・復興の促進が期待されます。また、鉄筋構造のコミュニティホールは今後の津波等、災害発生時に避難場所としての活用も見込まれます。

Voice 事業担当者からの声

日本財団トンガ支援チーム
真野優 ／ 梅村岳大

新型コロナ禍の中で、移動が制限されるなど多くの困難がありましたが、皆様からいただいた温かいお気持ちをしっかりと受け止め、トンガ王国の被災者の方々に届けられるよう、コミュニティホールの完成まで頑張ります。

最新情報は
WEBサイトに
掲載しています！

LOVE POCKET FUND

LOVE POCKET FUNDとは

「生きにくさ」を抱えている女性や子どもを中心とした支援、
高齢者や地方創生の支援のために

2022年度支援事業
Pick UP!

日本財団母乳バンクを支援

1500g未満の赤ちゃんは、母親のお腹の外で生活するための機能が未熟なため、母乳以外の粉ミルクなどを摂取すると壊死性腸炎などの重い病気にかかるリスク・重症化する危険があります。

母乳バンクは、ご自身のお子さんが必要とする以上に母乳が出るドナーから、母乳のご寄付をいただき、適切に処理・検査・冷凍保管し、「ドナーミルク」として小さな赤ちゃんに提供する仕組みです。母乳バンク施設には、高度な殺菌が可能となる高性能機器を揃えるほか、施設内で安全性と効果の研究も行っています。

現在、ドナーミルクを届けるための施設は日本に2施設しかありません。2022年7月から、国内2施設の1つである、(一財)日本財団母乳バンクへの支援を行い、全国の小さな赤ちゃんを治療する病院へ安全な母乳を届けています。

Voice
支援現場からの声

ドナーミルク利用者

妊娠中、出血をしたため受診したところ異常が分かり、大学病院へ救急搬送・出産。母子ともに危険な状態でした。妊娠25週、600g弱の女の子を出産しましたが、出産後すぐに意識が戻らず、ドナーミルクについて先生から父親に説明がありました。できることはなんでもしたかったので、迷いはありませんでした。今は順調に成長しています。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

kifuno chikara 09

HEROs FUND

HEROs FUNDとは

スポーツの持つ力を活かしてソーシャルイノベーションを

2022年度支援事業 Pick UP!

特定非営利活動法人ユアアクション

2016年熊本大震災をきっかけに、スポーツを通じて熊本を、子ども達の未来をより良いものにしたいという想いから、元サッカー日本代表選手の巻誠一郎氏が設立した団体です。

「まずやってみよう」と挑戦する気持ちと、失敗を恐れない気持ちを育むサッカープログラムを運営しています。

一般的な練習に加え、障害がある方との交流を通じたD&I教育や地域の生産者との交流により、子ども達の人間形成力や非認知能力を向上させる活動をしています。

Voice 支援現場からの声

特定非営利活動法人ユアアクション
理事長　巻誠一郎さん

サッカーの力を活用し、出来ない事を工夫してどうやったら出来るようになるかを考える「問題提議能力・解決能力」の習得を目的とする中で、その能力を個人の課題だけでなく、仲間と共にチームの課題解決に活用出来るような力を終盤には発揮できるようになってきました。また「忍耐力」「継続力」も同時に身につける子が多かったように感じます。今後は自分の夢へのチャレンジの中で、能力を変換して活用してくれることを期待しています。

事業詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

kifuno chikara

日本財団チャリティー自販機

集まった寄付金は100%活用いたします

飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付いただく、日本財団チャリティー自販機。この日本財団チャリティー自販機は、全国で8,300台以上が設置されています。1本10円のご寄付はこれまでに24億円におよびます。

皆様から頂きましたご寄付は、100%全額を「日本財団子どもサポート基金」「災害復興支援特別基金」「海と日本プロジェクト」「HEROs」に活用いたします。

寄付の仕組み　**飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付**

〈販売価格・設定条件は一例になります〉

130 → 10 → 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION → 10 → 寄付活用の支援先

130 → 20 → 設置者様

日本財団は間接経費をいただかず、100%すべて支援活動へ

寄付活用の支援先
- 日本財団子どもサポート基金
- 災害復興支援特別基金
- 海と日本プロジェクト
- HEROs

必要としている現場へ

詳細はWEBサイトに掲載しています！

Voice

設置者からの声

01

理研鍛造株式会社

富澤明美様

導入経緯

2019年6月から延べ7台設置しました。会社として社会貢献の枠組みを増やしたい、SDGｓに参加したいと考えチャリティー自販機の導入を決め、参加させていただきました。

導入後の反応

飲料1本につき10円を社会貢献活動プロジェクトに寄付できる。清涼飲料水を購入するだけで、知らず知らずのうちに全社員が社会貢献活動ができる価値ある事業と感じております。今後も社会の役に立てる嬉しさや喜びを感じ、弊社の社会貢献ツールとして、チャリティー自販機を応援していきます。

02

株式会社タカヤ

細屋伸央様

導入経緯

タカヤは2020年にSDGsに貢献することを宣言しました。建設会社として脱炭素化を実現する建物の設計施工、少子化に伴う担い手不足に対応した現場の省人化・働き方改革、産廃排出量の削減などに取組んでおります。

そんな折、日本財団チャリティー自販機を通じて、建設会社とは縁遠い子どもの経済的困難による教育の格差の改善に取り組む活動、「子ども第三の居場所」を応援できる事を知りました。自分たちの「工夫と選択」によって更に貢献の幅が広がる事となりました。

導入後の反応

真夏には水分補給、真冬には温かい飲み物、現場にとって緊張をほぐす休憩に必要なのが自動販売機です。「飲料一本につき10円」と小さい貢献ですが、子どもたちへの貢献が可能となりうれしく思います。

03

北関東ピアノ運送株式会社

赤石圭亮様

導入経緯

2030年までに達成すべき目標を定めたSDGs。私たち北関東ピアノ運送株式会社もSDGsに取り組むことが求められ、その重要性を感じていました。

しかし、どのようにSDGsの取り組みを進めるべきか、具体的にどうしたら良いか、わからないと思っていたところ日本財団チャリティー自販機を知り設置に至りました。

導入後の反応

全社員のSDGｓ意識が高まり『どうせジュースを買うなら』とチャリティー自販機で飲み物を購入するようになりました。ジュースを飲むだけで社会貢献できる、自動販売機を通じて気軽に、そして日常的に社会貢献に参加、社会の一助を担えて嬉しい気持ちでいっぱいです。

企業からのご支援

詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

Google.org 様

デジタルトランスフォーメーション（DX）基金とは

困難を抱える人たちがDXの導入によって、よりよい生活を送ることを目的として設置。特別支援学校や長期入院中の子ども等に向けたVR等による体験コンテンツ開発事業や、子ども向けオンライン食育プログラム等の支援を開始しました。

（2022年度 PickUP!）

「ソーシャル・セクターのDXを考える」の開催

日本財団は、Google.org様のご支援を受けてデジタルトランスフォーメーション基金を設置。記念して2022年12月「ソーシャル・セクターのDXを考える～誰一人取り残されない社会の実現に向けて～」と題したシンポジウムを開催しました。冒頭、Google日本法人代表・奥山真司様と初代デジタル大臣・平井卓也様から、本基金への期待の言葉をお寄せいただき、ソーシャル・セクターのDXにおける課題について実際に取り組む非営利団体からエピソードを伺いました。続いて、既に本基金の支援が決定した3つの団体から事業概要と今後の展望を語っていただきました。オンライン視聴も含め約90団体からの参加があり、本基金への期待値の高さを感じるイベントとなりました。

Voice
基金担当者の声

日本財団ドネーション事業部
伊藤麻里子

一般的にソーシャル・セクターのDXは遅れていると言われています。全国アンケート調査では、約8割がDXの重要性を認識しつつ、約5割が導入の難しさを感じているという結果になりました。私たち自身、学ばせていただきながら、まだ導入の進んでいないセクターの皆さんの旗振り役になれれば、と思っています。

桂不動産株式会社 様

社会貢献企業基金とは

中小企業の皆さまと日本財団が一体となって社会貢献活動に取り組むことにより、「共助」によって支えあう「みんながみんなを支える社会」を創っていきます。

（2022年度 PickUP!）

桂不動産株式会社様

桂不動産グループは今年で創業52周年。茨城県を中心に住関連総合提案企業として賃貸物件の管理業などを営んでいます。創業会長の頃からの教えで、社会貢献、特に地域への貢献は企業文化として根付いています。目先の業績だけを考えれば、社会貢献活動なんてする必要はないのかもしれません。しかし、10年後、20年後に会社がどうあるべきかを考えると、地域、そして社会から愛される会社になっていることが会社の未来につながるのではないかと思います。

今回、社会貢献企業基金に寄付させていただくにあたり、子どもたちのために使って欲しいという想いがありました。私たちも将来、子どもたちが大人になったとき、彼らに選んでもらえる会社になりたいと願っています。

Voice
寄付者の声

桂不動産株式会社　渡邉宗明様

理想をカタチに、総合提案
桂不動産株式会社

日本財団が行っているような大きな社会貢献事業は1社では担うことはできません。だからこそ、私たちのような中小企業が連帯することが大切です。今回、私も知人の経営者の声がきっかけで社会貢献企業基金に参加させていただきました。多くの仲間が集まるように、私もこれから声をあげていきたいと考えています。

kifuno chikara

歯医者さんの社会貢献

TOOTH FAIRY

TOOTH FAIRYとは

日本歯科医師会と日本財団による「TOOTH FAIRY」プロジェクト。
歯科撤去金属等を全国の歯科医の皆さまから募り、
さまざまな社会貢献活動に活用しています。

詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

2022年度支援事業
Pick UP!

佐賀県小城・多久歯科医師会のみなさま

佐賀県小城・多久歯科医師会は50年以上前から続く、ある慣習があります。それは全国的にも珍しい「歯の供養」をするというもの。6月の歯の衛生週間に毎年、亡くなられた歯科医師会の諸先輩方の供養と一緒に、治療で抜いた歯の供養をしています。

6月になると会員の先生方が1年間の抜去歯牙を持ち寄り、供養塔の前に並べます。お経を上げてもらい、順番にお焼香。それから塔の裏の納歯箱に歯を納めます。

しかし、供養塔が建立されてから45年経過した2022年。保管庫が45年分の歯牙でいっぱいになってしまったので整理と寄付を決めました。

そして換金した結果、納歯箱に眠っていた歯から取り出した金属は多額の現金に。小城・多久歯科医師会はその全額をご寄付くださいました。

Voice
寄付者の声

佐賀県小城・多久歯科医師会
会長 木下務先生

私たちももちろんですが、抜歯した患者さんたちも喜んでいらっしゃるのではないでしょうか。仕方なく抜いた歯が、結果的に子どもたちの笑顔につながっているわけですから、供養としては最良の形ではないでしょうか。今後の「TOOTH FAIRY」の活動にも期待していますし、私たちも微力ながらその助けになれればと思います。

プロジェクトの仕組み

不要になった
銀歯・金歯・入れ歯
→ 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
→ 現金化

子どもたちが楽しんでいる遊具もご支援によって設置されました。

kifuno chikara

新基金のご紹介

2022年度からご寄付受付を開始した基金を一部ご紹介します。

豊かな海を未来へ

海と日本プロジェクト推進基金

海と日本プロジェクト推進基金は、海の環境保全や海に関わる体験イベントを支援しています。私たちの海の現状を伝え、海の未来へ繋いでいくため、アクションの輪を日本全国に広げていきます。

支援内容一例

- **海にまつわる体験・学習機会の創出**
- **海洋ごみを減らすための周知啓発・清掃活動などの一斉アクション**

基金詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

国内外の障害者を支える

バリアフリー基金

バリアフリー基金は、インクルーシブな社会の実現を目指すため、国内外の障害者の就労支援、スポーツ、芸術活動など障害者を支援するＮＰＯ団体などの活動に活用させていただきます。

支援内容一例

- **障害者就労に関する支援**
- **障害者のスポーツ、芸術活動等の支援**

基金詳細は
WEBサイトに
掲載しています！

※2022年度はそのほかウクライナ避難民支援基金（～2024年3月）、日本財団子どもサポート基金、夢の貯金箱を開設しております。

収支報告

（2022.4.1～2023.3.31）

基金名	寄付金（単位：円）	支出額（単位：円）	備考
夢の貯金箱	47,169,458	248,878,733	
日本財団子どもサポート基金	64,566,891	128,474	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：25,516,549円
日本財団子どもサポートプロジェクト 子ども第三の居場所基金	131,584,471	53,212,333	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：59,586,192円
日本財団子どもサポートプロジェクト 難病児支援基金	105,577,081	29,446,338	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：47,315,609円
日本財団子どもサポートプロジェクト 夢の奨学金基金	80,189,407	49,437,644	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：31,492,483円
災害復興支援特別基金	164,686,389	594,188,133	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：77,700,412円
LOVE POCKET FUND	84,525,424	93,394,684	
HEROs FUND	22,109,098	41,428,704	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：20,902,378円
海と日本プロジェクト推進基金	328,732,047	169,699,968	うち日本財団チャリティー自販機からの入金：66,480円
バリアフリー基金	1,702,399	18,829	
TOOTH FAIRY	161,223,707	98,622,874	うち換金手数料：2,970,434円
ウクライナ避難民支援基金	180,568,103	429,016	
トンガ救援基金	9,491,309	74,323	
いろはにほん -Experience the Soul of Japan-基金	5,834,572	0	事業実施中のため次年度へ継続
遺贈基金	442,758,862	183,202,583	
メットライフ基金	124,212,990	131,640,000	
グーグル基金	68,815,000	166,530,000	
日本ベンチャー・フィランソロピー基金	58,301,314	230,054,474	
社会貢献ボートレース基金	15,000,000	150,000,000	
The Nippon Foundation-GEBCO Alumni Fund	0	63,891,888	
キリン「絆」プロジェクト	0	4,839,071	
New Day基金	0	0	事業実施中のため次年度へ継続
Shibuya Inclusive TOILET基金	0	201,235,045	
合計	2,097,048,522	2,510,353,114	

※日本財団チャリティー自販機からの寄付総額：291,954,668円（2022年度）

寄付者一覧

2022年4月～2023年3月にご寄付いただいた
皆様のお名前を、WEBサイトで紹介しています。

kifuno chikara

**2022年度もたくさんの
あたたかなご寄付を
ありがとうございました。**

ご寄付・ご支援のお願い

夢の貯金箱

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	1012106
支店名	口座名(漢字)
本店(001)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付

日本財団 子どもサポート 基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443179
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付

バリアフリー基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443197
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付

海と日本 プロジェクト 推進基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443184
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付

災害復興支援 特別基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	1660782
支店名	口座名(漢字)
本店(001)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付

皆様からのあたたかなご寄付をお願いいたします。

HEROs FUND

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443190
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付

LOVE POCKET FUND

オンライン・銀行振込で寄付

WEBサイト https://love-pocket-fund.jp/

日本財団 チャリティー自販機

申込・お問い合わせ

WEBサイト https://www.nippon-foundation.or.jp/donation/charity

お電話 0120-892-139

〖受付時間〗平日9:00〜17:00

TOOTH FAIRY

申込・お問い合わせ

WEBサイト https://www.tooth-fairy.jp/

お電話 0120-24-2471

〖受付時間〗平日9:00〜17:00

遺贈寄付

申込・お問い合わせ

WEBサイト https://izo-kifu.jp/

お電話 0120-331-531

〖受付時間〗平日9:00〜17:00

社会貢献企業基金

申込・お問い合わせ

WEBサイト https://smes.tnfportal.jp/

お電話 0120-533-236

〖受付時間〗平日9:00〜17:00

ご寄付に関する
お問い合わせはこちら。

日本財団 寄付専用窓口

電話

0120-533-236

受付時間｜9:00-17:00（月～金／土日祝日を除く）

メール

kifu@ps.nippon-foundation.or.jp

2022年度もたくさんの
あたたかなご寄付を
ありがとうございました。

Thank you very much!

ファンドレイジング チームより みなさまへ

2023年度も 現場の声に寄り添った活動を
行ってまいります。
引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

日本財団ドネーション事業部長　橋本 朋幸